



冬の風物詩・百人一首クラスマッチ・・・「秋の田の～」

大寒の候となり厳しい寒さが続くなか、1月22日（木）に恒例の百人一首クラスマッチが開催されました。会場の大体育館は凍てつく低温でしたが、熱戦が繰り広げられました。

40 年を超える伝統行事

本行事の歴史をたどると、今から 42 年前の 1984 年 1 月、当時の百人一首同好会が主催して開催されたのが最初です。3 年後の 1987 年からは学芸委員会主催でクラス代表選抜方式となり、さらにその 3 年後の 1990 年からは、1・2 年生全員が参加する現在の形になりました。コロナ禍には、全員がマスクとビニール手袋着用という姿で実施しました。

競技の方法

試合は、各クラス 4～5 人で編成される 9 班によるクラス対抗が基本です。まずリーグ戦は、計 10 クラスを 2 つのリーグに分けて総当たりします。その結果を受けて、各リーグの 1 位から 5 位までが順位決定戦を戦い、全体で順位を競います。体育館のフロアでは、同時に 45 か所で散らし取りが行われるため、本部役員から選ばれた読み手が 1 か所でマイクを使って歌を読み上げます。1 試合は 15 分間のなかで、取った枚数を競うことになります。

白熱した戦い

上の句の一部が読み上げられると、素早く取り札に手が伸びたり、下の句を読み終わっても取り札を探していたりと、取る早さは歌や班によって様々でした。狙っていた札を取ることができて歓声が上がる場面や、逆に相手の班にとられて残念がる場面など、あちこちで様々な姿が見られました。国語の時間では 1 時間扱うだけで、練習はクラスごとそれぞれだったようです。総合成績の上位は、優勝：2 年 A 組、準優勝：1 年 C 組、3 位：1 年 B 組でした。こうした学校行事は貴重な機会として、これからも大切にしていきたいと思います。

